

甘平の施設栽培(無加温・雨よけ)

愛媛県オリジナル品種「甘平」の施設栽培の特徴について紹介する。

1. 大玉果率が高くなる

露地と比較して果実肥大が促進され、大玉果率が向上する。

2. 果実の着色が優れる

ネット・フィルム被覆による遮光効果で、果皮の退色が防止され露地に比べて紅の濃い果実となる(写真1)。



雨よけ 露地(無袋)

写真1 収穫時期の果実

3. 裂果の発生が少ない

かん水施設を利用した定期的なかん水により土壌水分が保持されるため、露地に比べて裂果の発生は少ない傾向にある(図1)。

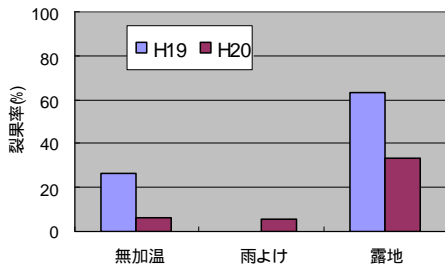


図1 甘平の作型ごとの裂果率

注) 雨よけはH20のみ。H20の施設(無加温・雨よけ)は裂果期間中の降雨時に屋根面フィルム被覆。

4. 高糖果生産が可能

増糖時期にあたる10月以降、屋根面フィルム被覆による降雨の遮断で節水管理が行え、高糖果生産が可能となる(図2)。

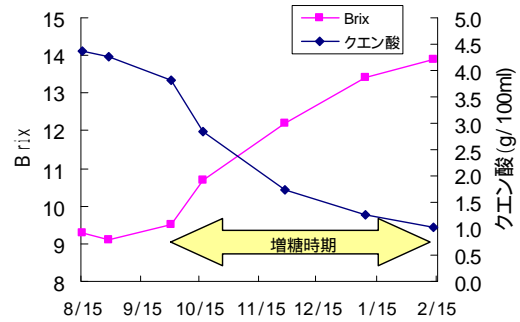


図2 雨よけ甘平の糖酸の推移(2008年)

5. 連年安定生産が可能

生理落果後の着果状態によるが、満開約60日後に粗摘果を行うことで大玉果率が高くなり、満開約80日後に葉果比100程度に仕上げ摘果を行い、その後、裂果や樹上選果により10月頃の最終葉果比110~120程度にすると翌年の着花量が確保できる(表1)。

粗摘果を実施し、適正着果量に仕上げることで大玉、連年生産が可能となる。

(施設土壌班 主任研究員 安部伸一郎)

表1 無加温栽培した甘平の摘果方法の違いによる階級割合と翌年の着花量(H20年産)

試験区	階級割合(%)						翌年の着花量
	5L以上	4L	3L	2L	L	M以下	
粗+仕上げ	0.9	12.1	34.7	43.7	8.3	0.3	2.9
仕上げ	0.0	0.7	25.0	61.8	12.6	0.0	2.3

注) 階級はネーブル規格で果数割合、着花量は2009年4月19日調査。

処理内容: 満開60日後に葉果比60~80に粗摘果を行い、その後生理落果の状況を見ながら80日後に葉果比100程度に仕上げ摘果を行う区(以下、粗+仕上げ区)、満開80日後に葉果比100程度に仕上げ摘果1回のみを行う区(以下、仕上げ区)を設けた。